

# 山行報告書

作成:2010年9月15日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	大キレット[北ア]	目的(方法)	高所トレーニング
期間	2010年9月3日(金)~9月6日(月)	形態	馬蹄形周回小屋2泊
9/3(金)晴れ	自宅(1800)==豊田南 IC==ひるがの高原 SA TS1(1940)		
9/4(土)晴れ	TS1(330)==飛騨清見 IC==新穂高 BT(520)==新穂高有料 P(540,555)—新穂高温泉 BT(600,610)—穂高平小屋(710,725)—白出沢(820)—ブドウ谷(844)—七ヶ谷(904)—滝谷避難小屋(935,940)—南沢(1022)—槍平小屋(1045,1130)—救急箱設置場所(1404)—2800m(1524)—2900m(1538)—南岳小屋 TS2(1558)		
9/5(日)晴れ/時々霧	南岳(515,535)—TS2(540,610)A 沢コル(827)—北穂高小屋(957,1030)—北穂高岳(1032,1045)—涸沢小屋 TS3(1310,1350)—涸沢ヒュッテ(1355,1405)—横尾山荘 TS3(1555)		
9/6(月)晴れ	TS3(610)—徳澤園(730,740)—明神館(840,845)—上高地 VC(925,1045)—河童橋(1056)—上高地 BT(1105,1130)+++平湯 BT(1200,1240)+++新穂高BT—新穂高有料 P(1340,1350)===平湯の森(1420,1450)===中津川 IC(1750)==豊田南 IC==自宅(1855)		



◇交通費  
往路 ETC休割 ¥1000  
復路  
上高地~新穂高温泉  
バス(¥1130 ¥1370)  
新穂高有料 P ¥5000  
ETC 通割 ¥1350  
◇ 小屋情報  
・南岳小屋 1泊2食 ¥9000  
500ml無料 水購入可  
・横尾山荘 ¥9500  
入浴可(石鹸使用不可)  
タオル無料 飲料水有

日誌:9/3(金) ひるがの高原 SA は秋を思わせるほど涼しく閑散とした奥で20時半就寝。  
9/4(土) 寒くて1時半に眼覚め、満車に近いSAを3時半に出発。白川郷ICまで行き過ぎ折り返し飛

騨清見 IC より中部縦貫道を経て新穂高温泉無料 P に着くと満車。(案内板はないので左手の深山荘入口の看板を注意し降り)しかたなく新穂高有料 P を利用し、BT にある登山箱まで戻って出発。右俣林道最終点で砂防工事は行われ大型トラックと2時間ほど付き合う。奥穂高岳登山道を分けると幾つかの沢は涸れていたが増水時の渡渉は厳しいか? 滝谷避難小屋は詰めて10人。トイレを除きまずまず。槍平小屋内のテーブル席は外来者も利用できるのありがたい。昼食後南岳新道に向うは吾のみとなる。閉塞感ある急峻な登山道に鎖、梯子も付きグングンと高度を上げると後方には笠、黒部五郎、薬師岳が目線上に鎮座。穂高3000m稜線の登り降りは何処も大変で、大キレットを経てきた若い女性には厳しかったようだ。ハイマツを抜けた岩稜帯花畑はそのご褒美とも言えよう。1張りも無いテン場に宿泊者30人南岳小屋泊。天水利用のご苦労が伺える。20時就寝。(標高差1900m) 9/5(日) 南岳に立つと常念岳から太陽が昇り、朝陽に染まる槍穂、白馬、蝶、前穂... 鷲羽とぐるりと同定を楽しむ。小屋の朝食をしっかり摂りラストご夫妻の前に出発。白いペンキマークに導かれながら獅子鼻岩を大きく巻きサレ場を慎重に降りる。アップダウンを繰り返す稜線日陰で幾度か休み、太い頑丈な鎖、梯子に助けられ長谷川ピーク・A 沢のコルまで来る。細かい浮石が多いルンゼを登りきると核心部は終り、最後の急登を詰めると北穂高岳小屋テラスには元気な中高年の声で溢れていた。踏跡を追いながら大休止。小屋裏の山頂に登山者多く、深い滝谷、前穂全景に奥穂、ゴジラ背の東稜1級の展望にうっとり。高みとの別れを惜しんで南稜急降下に気を引き締める。雷鳥や花畑に癒されサレ場や樹林帯の猿に注意した。長い降り能耐え涸沢小屋に着くと山頂で出会った高名な方の話を聞かせていただく。行動食の甘いソフトクリームに元気回復すれば次は横尾のジャグジー風呂だ。パノラマ新道奥又は次回の楽しみとし、改装した山荘まで脚を伸ばした。ほぼ満席の食堂で美味しい食事をいただき、隣人と会話は19時まで弾む。彼女から新村橋対岸付近の熊と早朝の猿集団出没情報を得て明朝6時出発とし21時就寝。(標高差1500m) 9/6(月) 河川林の清涼散策。山懐から生まれた鋭く澄んだ水の色とアルペンの風貌を心に刻んで終る。